

大和合金

被災地でボランティア



「震災後2年が経つが、被災地はまだ復興し切れていない。われわれにも何かできることがあるか考えた」と話すのは銅合金鑄鍛造メーカー大和合金の萩野源次郎社長。今月、同社では東日本大震災で津波が襲った岩

手県の陸前高田市でボランティア活動に参加した写真。作業前に同市で被災の現実を伝える現地。いまだ生活の跡が残る状況で、調査の語り部の説明に耳を傾け、被害の大きさを理解。全社員がれきをコンクリートや金属、ビンなどに分けて袋詰めした。

萩野社長は「普段どおりに仕事や生活ができていないことを改めて感謝しなければならぬ。社員皆にもその思いを共有してほしい」と話している。

全社員参加、がれき撤去

に分けて袋詰めした。萩野社長は

「普段どおりに仕事や生活ができていないことを改めて感謝しなければならぬ。社員皆にもその思いを共有してほしい」と話している。

ボランティアには来年度から入社する学生5人が参加。うち2人は盛岡から採用している。